

全内航 第1回 全内航交渉委員会（概要）

全内航との第1回中央交渉は、15時30分から開催した。労使双方の交渉委員を確認した後、船団側を代表して関田拓生全内航会長（交渉委員長）、組合側を代表して松浦満晴組合長がそれぞれあいさつを行った。次に交渉委員会運営を確認の後、組合要求に関する趣旨説明を行い、船団側から、今次労働協約改定に関する申し入れはないとの報告がなされた。

交渉では組合要求に対する考え方を質したところ、船団側は、船員の労働条件・労働環境を改善しなければならないことは理解しており、社会情勢や内航海運業界の現状を踏まえ、期限内解決に向け交渉に臨みたい。また、年間臨時手当交渉の同時決着について、船団側は異論ないとした。

最後に「有効期間」については本日段階で仮合意とし、次回交渉日程については3月11日の15時30分から、関西地方支部で開催することを確認し、16時に第1回全内航交渉委員会を終了した。

船団側あいさつ（概要）

昨今の大幅な物価高の影響は、船舶に関わる全ての諸経費に大きな重圧となって経営を圧迫し続けています。経営を維持し安全かつ安定的な輸送を行うために、適正な運賃・用船料の収受が不可欠であります。

また、われわれ全内航船団は環境整備の改善を目指し3年間連続で貴組合の要求に対して満額回答を行ってまいりました。各社の置かれている状況が異なる中で判断することは困難を極めることですが、社会情勢また内航海運業界の現状を把握し、慎重に検討を行い交渉に臨みたい。

「海員だより」